

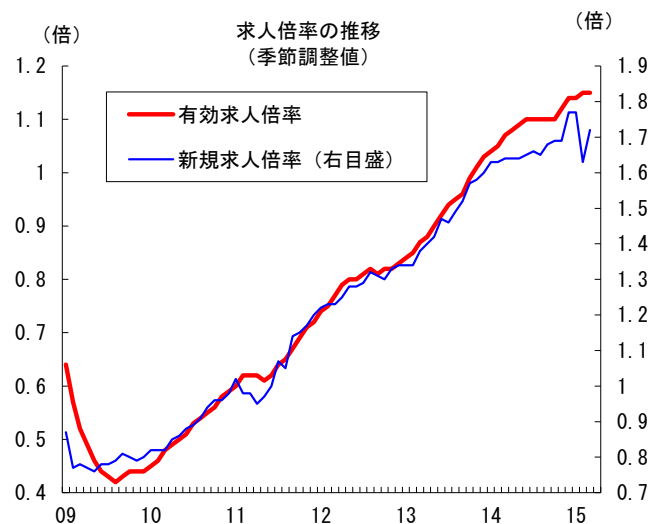
テーマ：労働力調査・一般職業紹介状況（2015年3月） 発表日：2015年5月1日（金）
～雇用環境は引き続き良好～

第一生命経済研究所 経済調査部
担当 主席エコノミスト 新家 義貴
TEL：03-5221-4528



（出所）総務省統計局「労働力調査」

（注）2011年3～8月は、補完推計値を用いた参考値



○ 失業率は低水準での推移が続く

総務省から発表された2015年3月の完全失業率は3.4%と、前月から0.1%ポイント改善した（市場予想：3.5%）。引き続き失業率は低水準での推移となっており、労働需給の引き締まりが示されている。もっとも、3月は労働参加率が低下したことで失業率が押し下げられている面が大きく、雇用情勢に前月から大きな変化があったわけではない。また、3月の季節調整済みの就業者数は前月差▲10万人（2月：+2万人）、雇用者数は前月差+3万人（2月：▲10万人）だった。月々の振れはあるが、就業者数、雇用者数とも順調な拡大傾向が続いていると判断して良いだろう。雇用環境は引き続き良好だ。

○ 新規求人が2ヶ月連続で大幅減少だが・・・

厚生労働省から公表された15年3月の有効求人倍率は1.15倍と、前月（1.15倍）と同水準だった。これは1992年3月（1.19倍）以来の高水準であり、労働需給が引き締まった状況にあることが示されている。また、新規求人倍率は1.72倍と、前月の1.63倍から+0.09ポイント上昇している。

ただ、気になるのは新規求人数が前月比▲5.0%と、2月の▲3.5%に続いて大幅な減少となっていること。僅か2ヶ月でこれだけ減るのは珍しい。特に2、3月に制度変更等があったわけでもなく、不可思議な動きである。もっとも、新規求人数を前年比で見ると、14年10月が+1.1%、11月が▲4.4%、12月が+5.6%、15年1月が+3.0%、2月が+1.7%、3月が+4.7%となっており、2、3月の数字がこれまでと比べて大きく落ち込んでいる様子は窺えない。また、筆者が直近までの値を元に季節調整をかけ直したところ、公表値で示されているような2、3月の落ち込みは確認されず、むしろ足元まで堅調な推移が続いているという結果になった¹。企業の雇用不足感が非常に強い状況にも変化はなく、求人を取り巻く環境が急に変わったとも言

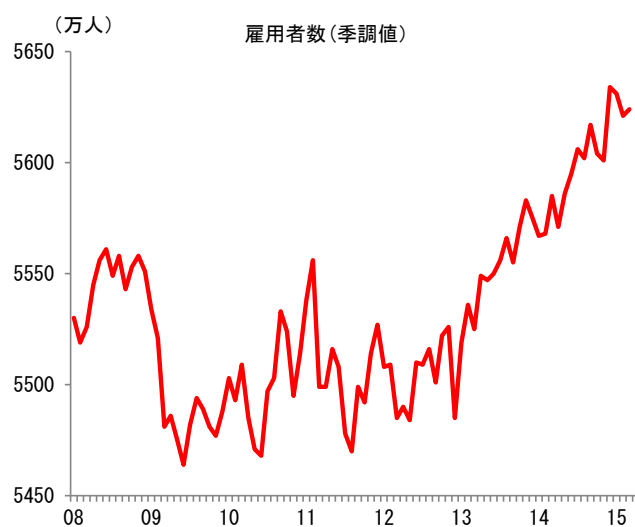
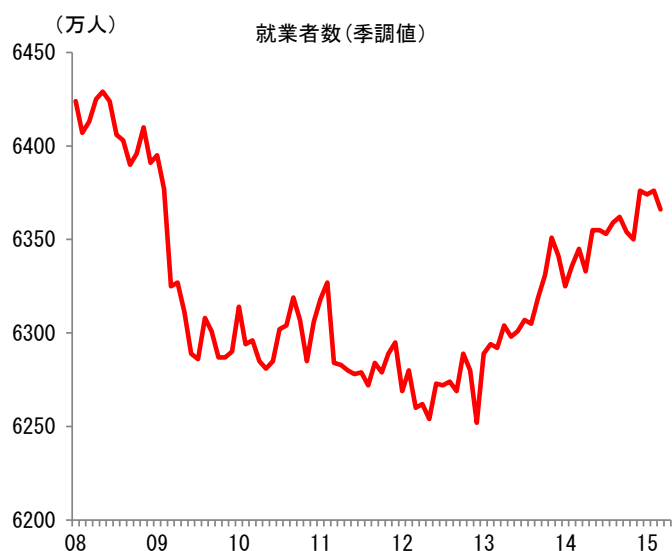
¹加えて、公表値では、新規求職者数について、季節調整済み前月比で2月が+4.8%、3月が▲10.0%と、過去にない奇妙な増減を示していることも気になる材料だ。

いがたいことも踏まえると、季節調整が上手くかかっていない可能性が高いのではないだろうか。来月以降の結果も併せて見る必要はあるが、現時点で求人動向が変調をきたしているとは思われず、引き続き雇用情勢は良好と判断したい。

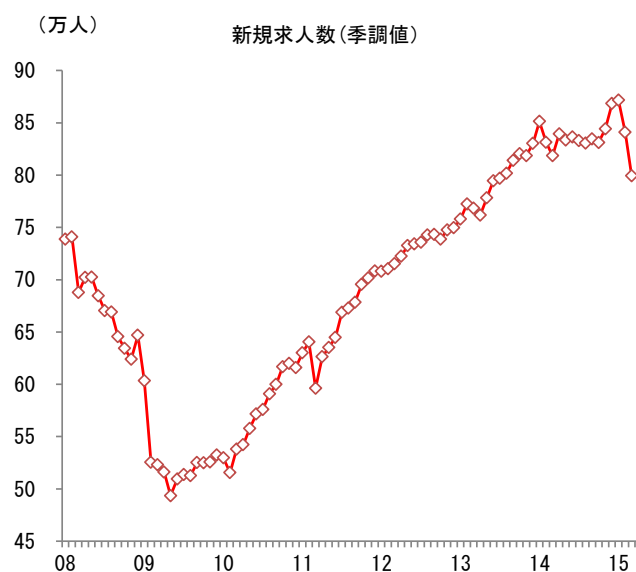
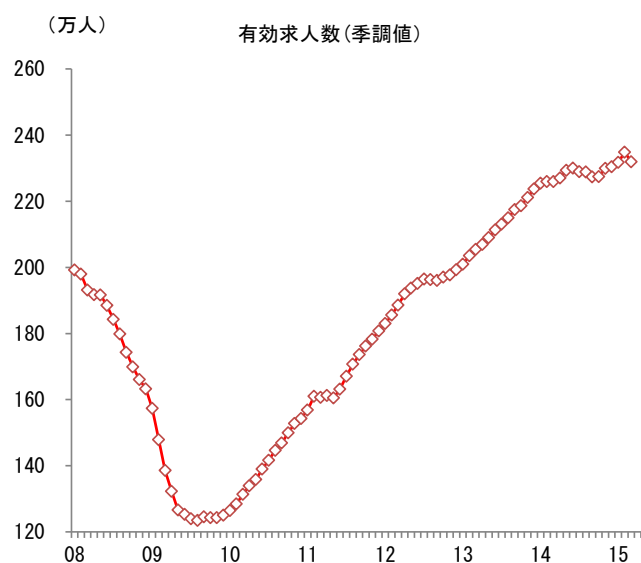
○ 先行き、所得の回復が期待できる

こうした雇用の増加に加え、先行きは賃金の増加も期待できる。注目された春闘では、2年連続でベースアップが実施され、昨年を上回る賃上げ率が実現したとみられる。加えて、賞与についても増額回答が多くみられており、15年もボーナスの増加が期待できそうだ。

このように、雇用者数の増加に賃金の持ち直しも加わり、先行き雇用者所得は増加が見込まれる。また、物価の鈍化傾向が強まり、今後は一時的にC P Iのマイナス転化が予想されることも家計の実質購買力増加に繋がるだろう。足元で個人消費は依然低迷が続いているが、こうした外部環境の好転を踏まえると、先行きについては徐々に明るさが出てくるものと予想される。



(出所) 総務省「労働力調査」



(出所) 厚生労働省「一般職業紹介状況」